

8月27日

学芸講座「岐阜県民は県の鳥“ライチョウ”が嫌いなのか？」
に寄せられたご質問に

講師・楠田哲士先生がお答えしますQ&A
(岐阜大学応用生物学部 教授)

Q 火打山でのイネ科の植物の刈り取りボランティアがありますが、参加したい気持ちはすごくありますが遠いです。岐阜県内、乗鞍や岐阜大学の繁殖研でボランティアの募集などないですか。保全活動に関わりたいです。

A 岐阜県側としてのボランティア制度は聞いたことがなく、私のほうで知っている範囲では、ご紹介できるものがなさそうです。

「長野県ライチョウサポーターズ」の募集があるようですので、もしかすると、乗鞍岳も活動範囲かもしれません。

<https://www.raicho-nagano.jp/supporters/>

岐阜県側からのこうした制度作りに関しては、提案してきているのですが、なかなか難しそうです・・・

Q 地球温暖化の影響について少し触られていましたが、ライチョウ自身の繁殖への影響もあるのでしょうか。繁殖を制御する要因が温度だった場合、温暖化によって繁殖時期がずれることもあるのでしょうか。また、それによる影響も知りたいです。

A ずれる（早まる）と思います。中村先生（中村浩志信州大学名誉教授）曰く、昔に比べて、産卵期が早くなっていると仰っていたことがありました。

データに基づく話ではなかったため、どの程度の日数なのかは不明です。

それによって、クラッチ数や卵の質に何らかの影響が及ぶかは気になるところです。

繁殖期（や換羽期）がずれたとして、個体の存続にどのように影響（正なのか負なのか）するかは不明ですが（色々想像できる）、捕食者増加などの負の影響は大きそうな気がします。